

《巻頭言》

Pensée (パンセ) はフランス語、「思想」「思考」といった意味です。17世紀自然科学者、哲学者、思想家、文学者ブлез・パスカルが自らの書籍の出版に向けて、思いついた事を書き留めた数多くの断片的な記述を、彼の死後に遺族などが編纂し刊行した遺著のタイトル(『Pensées』)でもあります。

9月6日の地震では前日の強風に続き、多くの悲しみをもたらしています。日々の営みに紛れ、生きてあることの幸福と社会で繋がることの意味を忘れたときに、自然の荒ぶるエネルギーを改めて感じています。

私たちはどうい生活方をすべきなのかと。

繰り返されてきたことですが、もう一度自分の生活を振り返ってみよと。学生は何をなすべきか、教職員の務めはなにか、大学の役割は、大学図書館の存在意義は、と。

積み重ねてきた歴史や思想から何を学ぶか、図書館はなぜあるのか、大学図書館の意義を今一度考えてみたいと思います。

札幌国際大学「図書館報 Pensée」は1992年に発刊開始され休刊していましたが、本号から復刊します。定期的に学生の皆さんや教職員の方々の文章を頂ければ幸いです。

記念すべき復刊号で、地域の方々を含め学生の皆さんや教職員・関係者の安否とお見舞いを申し上げます。また、図書館の書架も倒れ、所蔵書籍資料も散乱していましたが、司書職員と学生の皆さまのお力で現状近くまで復帰開館することができましたことに、お礼申し上げます。

年度初めから計画して参りました図書館リニューアルもこれから着工となります。特に第二閲覧室の「えほんコーナー」を中心に、今年度中に改修の予定です。

次年度は、昭和44(1969)年札幌修徳短期大学として開学して満50年を迎えます。節目の年に向け、総合情報館・大学図書館も学生・教職員のみなさまの利用サービスに努めて参りたいと思います。

図書館運営委員と司書職員を中心に、みなさまのリクエストにお応えして参ります。「図書館報 Pensée」には、遠慮ない気ままな文章と新刊や企画の紹介、利用状況のお知らせなど掲載してまいります。(総合情報館・図書館長 武井昭也)

Contents

- ・巻頭言 1p
- ・札幌国際大学図書館の歴史を振り返る 2p
- ・2018年(平成30年)前期図書館利用状況について 3p
- ・イベント告知 3p
- ・新刊紹介 4p
- ・編集後記 4p

札幌国際大学図書館の歴史を振り返る

札幌国際大学(以下「本学」)図書館の歴史は、本学の前身である札幌静修短期大学が開学した1969年(昭和44年)、旧3号館(現1号館)2階に僅か約225㎡という図書室から始まりました。開学当時の蔵書数は1万冊を満たさず、開学3年目の1971年(昭和46年)にようやく1万1千冊の蔵書となりました。

図書館として独立した建物になったのは、開学後5年を経た1974年(昭和49年)1月で、現在の1号館正面玄関前の来客駐車場となっている場所に2階建て延面積1,382㎡の独立棟として建設され、「自然環境に意を払い、効率と機能性の発揮に心を配った近代的施設、設備」(開学10年の歩みより)で、2階に閲覧室と教員研究室、1階にAV教室、コンピュータ室、書庫が配置され、図書収容力約5万冊の図書館として誕生しました。

その後、1983年(昭和58年)に「図書館長期計画報告書」がまとめられ、新しい図書館(情報センター)の必要性和新しい建築物としての図書館の誕生が提言されたことから、新図書館建築への準備が開始されました。これが現図書館(総合情報館)建設の契機となり、1985年(昭和60年)4月図書館建設準備委員会発足により建設への一歩を踏み出し、同年10月工事着工、1986年(昭和61年)10月竣工を経て同年11月1日開館しました。この新しい建物はLIM(総合情報館)と命名され、図書館(図書収容力は旧図書館の約4倍の21万冊)の他にシアター、プラザ、レストラン、会議場(現ラウンジ)、研修室等を備え、面積約7800㎡を擁する複合施設として誕生しました。当時の女子短期大学図書館としては、北海道・東北随一の規模と設備を誇り、道内外から数多くの大学や短期大学、市町村の図書館関係者の方が相次いで見学に訪れていました。

現図書館は開館以来、間もなく32周年を迎えます。この32年の間、図書館の役割は大きく変わり、様々な情報や資料を様々な媒体で提供することが求められています。図書館も施設・設備の更新や資料の整備を充実させ、利用者皆さんの学修・研究の拠点として、サービスの充実に努めてまいります。

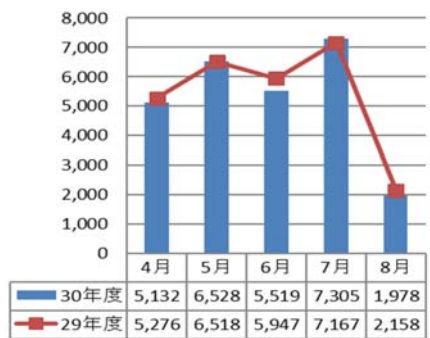
2018年（平成30年）前期図書館利用状況について

今年度前期各月毎の図書館利用状況（入館者数と帯出冊数）は右のグラフの通りです。

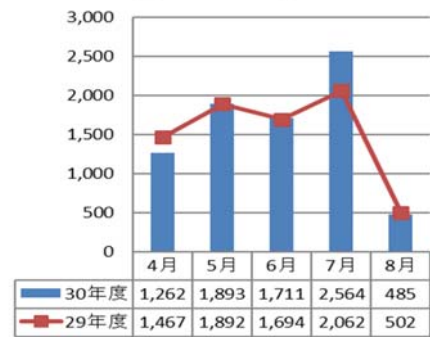
前期の入館者合計は24,484人で昨年比マイナス424人です。一方帯出冊数合計は7,430冊で昨年比プラス315冊となっています。帯出冊数のうち、学生への帯出は4,722冊で昨年比プラス394冊となり学生の利用増加が目立っています。



入館者数



貸出冊数



イベント告知

- ・書評・評論コンクール：[応募締切 10/31\(水\)](#)（詳細は募集要項参照）
- ・シアター・プラザのイベント
 - 10/27(土)・28(日)わくわくフェスティバル(シアター・プラザ)
 - 11/30(金)縄文芸術祭 縄文太鼓と舞踊の夕べII(プラザ)
 - 12/1(土)朗読の集い(シアター)
 - 12/22(土)ダンス発表会(シアター)
 - 12/23(日)YOSAKOI ソーラン部発表会(予定)(シアター)

新刊紹介

一般書



369.2
KA
1-6



146
SHI
3



376.11
SA



689
SH



664.62
HU



783.7
IS
1



933
IS



912.6
YA

絵本



E
KU



E
LA



E
MI



E
NA

編集後記

読書の秋に Pensée（パンセ）13年振りの復刊です。年4回の発行を目標に、図書館に関する情報を皆さんにお届けしたいと思いますので、ご愛読いただければ幸いです。（TY）